

# J Aグループ自己改革の取り組み



令和 5 年 4 月 2 8 日  
全国農業協同組合中央会



# 1. 第29回 J A 全国大会決議と自己改革実践サイクルの全体像

自己改革  
基本目標

1 農業者の所得増大

2 農業生産の拡大

3 地域の活性化

令和3年10月開催 第29回 J A 全国大会

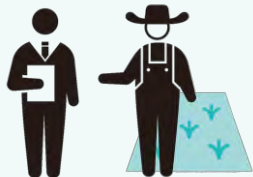
持続可能な農業・地域共生の未来づくり  
～**不断の自己改革によるさらなる進化**～



自己改革実践サイクルに取り組むことを  
**組織として決定**

## 自己改革実践サイクルの全体像

J A



**P** 計画 3つの方針の決定  
組合員との対話をふまえ決定

**D** 実行 3つの方針に基づき実践

**A** 改善 評価等をふまえ取り組みを改善

**C** 評価 取り組みの評価・意向を把握

中央会・連合会

**S** 支援 J A の方針策定や取り組みを支援

**A** 改善 取組状況をふまえ支援内容を改善

農林水産省等

**A** 改善 指導監督、助言等を通じて改善

### 自己改革実践サイクルのカイゼン

- J A ①組合員との対話を通じた改善
- 中央会等 ②中央会等の支援を通じた改善
- 農林水産省等 ③指導監督等を通じた改善

## 2. 3つの方針の決定状況

### 3つの方針

#### ①自己改革を実践するための具体的な方針

➡ 農業者の所得増大につながるJAの取り組み及びKPI

#### ②中長期の収支見通しについてのシミュレーション

➡ 各事業の収支シミュレーションをふまえた経営基盤強化の取り組み

#### ③准組合員の意思反映及び事業利用についての方針

➡ 意思反映の仕組みの明確化及び事業利用についての判断

### 対話

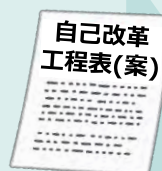
「自己改革工程表」等にとりまとめて、**組合員と対話**

令和3年度

令和4年度

#### ①組合員と**対話**

- ・訪問活動
- ・品目別の会合
- ・地区別座談会 など



#### ①組合員と**対話**

- ・訪問活動
- ・品目別の会合
- ・地区別座談会 など



#### ②ニーズを**把握**

#### ②自己改革工程表(3つの方針)案を**説明**

#### ③必要な方策を**とりまとめ**

#### ③組合員の意見をふまえ**修正**

ポイント💡 過年度取り組みや工程表詳細など組合員向け説明資料も適宜作成

### 決定

全てのJAの  
総(代)会で決定

自己改革工程表


- ①自己改革方針 **KPI**
- ②シミュレーション  
・経営基盤強化
- ③准組合員方針

ポイント💡 事業計画等と連動

# 3-1. 自己改革実践のための具体的な方針

## 農業者の所得増大につながるJAの取り組み及びKPI設定の考え方



- ポイント**  JAの取り組みで、**農業者の売上増加・コスト低減**を支援することで、**所得増大**を実現
- 「農業者の所得増大」につながるJAの取り組みに **KPI** を設定
  - 各JAが置かれている事業環境及び組合員との対話を通じて、必要な方策を検討・実践

### 売上増加につながる取り組み

#### 【販売量を増やす】

- 生産販売支援とセットの作付推進
- 多収性品種への転換推進 など

#### 【販売価格を上げる】

- 優良品種への転換 ・ニーズに合わせた荷姿出荷 など

### コスト低減につながる取り組み

#### 【資材使用量を減らす】




- コンテナ出荷推進 ・土壌診断による適切施肥 など

#### 【資材価格を下げる】

- 大型規格普及 ・予約購買の推進(一括仕入れ) など

### 例

#### 生産販売支援とセットの作付推進のKPI

- ① 作付増加分の販売数量や単価  
農業者の所得増大へのつながりが**明確**  
農業者の所得増大の多寡が**判断可能** 
- ② 作付増加分の作付面積  
農業者の所得増大へのつながりが**明確** 
- ③ 作付推進に向けた巡回回数  
農業者の所得増大へのつながりが**不明確** 

### A 改善

「③」をなくし「②」から「①」へ **カイゼン**



# 3-2. 事例・状況 自己改革実践のための具体的な方針

取組内容と所得増大につながるKPIを明示するとともに、具体的な内容を説明している事例

| 重点目標                            |         |                     | 成果指標・目標値 |         |         |
|---------------------------------|---------|---------------------|----------|---------|---------|
| <b>農業者の所得増大・農業生産の拡大</b>         |         |                     |          |         |         |
| 集客力向上の取組みによる生産者所得の向上            |         |                     | 令和4年度    | 令和5年度   | 令和6年度   |
| 所得向上対象者：直売所出荷者                  |         | 想定：来店客数増加による、売上増加効果 | 目標       | 目標      | 目標      |
| 3か年累計                           | 50,000人 | 客単価1,660円           | 15,000人  | 15,000人 | 20,000人 |
| 販路拡大による農業者の所得増大                 |         |                     |          |         |         |
| 所得向上対象者：担い手出荷者                  |         | 想定：販売先拡大による、売上増加効果  | 目標       | 目標      |         |
| 3か年累計                           | 3件      | 売上高1件あたり200万円       | 1件       | 1件      |         |
| 銘柄集約された肥料の一括仕入れによる取扱拡大を通じたコスト削減 |         |                     | 令和4年度    | 令和5年度   | 令和6年度   |
| 対象者：必要とする全ての者                   |         | 想定：コスト削減効果          | 目標       | 目標      |         |
| 3か年累計                           | 42,300袋 | 1袋あたり1,000円         | 14,000袋  | 14,100袋 | 14,200袋 |

**ポイント** 都市的地域であるJA①では、対話の結果、置かれた環境に応じた施策を決定。組合員向けの説明資料では、目標だけでなく、**想定される効果を示すと同時に、より具体的な内容・目標数、中期的方向性も明示。**

**直売所の集客力向上の取組みによる生産者所得の向上**

所得向上対象者：直売所出荷者 想定：売上増加効果

令和4年度は、来店客数 1.5 万人増加、売上高 24,900 千円増加をはかります。 平均客単価1,660円

|     |          |     |       |
|-----|----------|-----|-------|
| [ ] | 4,000 人  | [ ] | 900 人 |
| [ ] | 4,100 人  | [ ] | 750 人 |
| [ ] | 3,000 人  | [ ] | 650 人 |
| [ ] | 1,050 人  | [ ] | 550 人 |
| 計   | 15,000 人 |     |       |

令和5年度以降の取組み

令和5年度は、更なる各種イベントを開催し、新規顧客の開拓および既存客の固定化に取組みます。令和6年度には、栽培講習会による指導効果を発揮して、端境期の地場率向上をはかり、集客力を強化して所得向上に貢献します。

---

**販売先（売り場）の確保による売上高増加**

所得向上対象者：担い手出荷者 想定：売上増加効果

令和4年度は、マーケットインに基づき量販店の売場の確保・また加工向け販路を確保し、売上高 200 万円増加をはかります。

|       |     |          |
|-------|-----|----------|
| 管内量販店 | 1 件 | 売上高200万円 |
|-------|-----|----------|

令和5年度以降の取組み

令和5年度は、実需者ニーズを捉え、販売先を確保し安定的な取引を行い、さらに販売拡大を進めます。(売上高増額 200 万円)  
令和6年度は、消費者の信頼にこたえ、安全で安心な「[ ]産農産物」を安定的に供給する取組みを強化しつつ、販売力の向上をはかります。(売上高増額 200 万円)

---

**銘柄集約された肥料の一括仕入れによる取扱拡大を通じたコスト削減**

対象者：必要とするすべての者 想定：コスト削減効果

令和4年度は、「肥料の新たな共同購入運動」の着実な実践により、銘柄集約された肥料の一括仕入れによる利用促進をはかります。

|               |          |             |
|---------------|----------|-------------|
| 化成肥料 14-14-14 | 14,000 袋 | 1袋あたり1,000円 |
|---------------|----------|-------------|

令和5年度以降の取組み

令和5年度以降についても、集約メリットを反映した、「肥料の新たな共同購入運動」の着実な実践により、一層の取扱量拡大を通じて所得増大に貢献します。

## JAの取組状況（KPIを設定し取り組む割合）

| 内容                | JA割合  |
|-------------------|-------|
| 販売量増加につながる取組み     | 72.8% |
| 販売価格向上につながる取組み    | 59.0% |
| 資材等の使用量減少につながる取組み | 44.8% |
| 資材等の価格低減につながる取組み  | 69.1% |
| 上記以外の所得増大につながる取組み | 41.2% |

# 4-1. 中長期の収支見通しについてのシミュレーション

## 各事業の収支シミュレーションをふまえた経営基盤強化の考え方

### 成行き シミュレーション

過去の傾向に基づき  
将来の収支を予測

### 収支改善策


具体的な数値目標を  
設定し着実な実践へ

### 対策後 シミュレーション

成行きシミュレーションに  
改善策の内容を反映

### 事業計画

事業計画と収支改善策を  
整合して妥当性を担保

- ポイント**  ・ **早め早めの経営改善**で、持続可能な収益性と将来にわたる健全性を確保
- ・ 中長期にわたる全事業のシミュレーションを毎年見直し、**施策を策定**

### 収益増加につながる取り組み

- ・ 出向く体制の強化
- ・ 手数料適正化等に関する基準の見直し など

### 費用削減につながる取り組み

- ・ 施設の集約・効率化
- ・ 生産資材の配送及び在庫管理の一元化 など

**例**

### 収支改善の取り組み

#### 出向く体制の強化

これまでJAを未利用・低利用だった大規模法人等  
に対して、営農指導員と購買担当者が連携してア  
プローチし、営農指導とあわせた低コスト生産資材の  
提案販売に取り組むことで、供給拡大につなげるなど、  
出向く体制の強化により農業者の所得増大とJAの  
事業量増加を実現。

### A 改善

妥当性ある収支改善策の実践にむけて、組合員とも対話のうえ、各施策の事業量目標や改善額などを設定。対話を通じてPDCAを回しながら、進捗管理の高度化へ **カイゼン**

# 4-2. 事例・状況 中長期の収支見通しについてのシミュレーション

## シミュレーション結果に加えて、収支改善策の具体的な内容や効果額を明記している事例（抜粋）

### 今後5年間の収支見通し(成行きシミュレーション)

- J A 〇〇として、現状のまま事業改革を進めなかった場合の5年後の成行きについてシミュレーションを行うと、5年後には現在の事業利益に比べて、約2.7億円減少する見通しとなりました。
- 今後は事業管理費のさらなる削減を実行するとともに、特に営農経済部門の事業総利益の収支改善の取り組みを実践し、健全で持続性のある経営を確保することが緊急の課題となります。

### 今後5年間の収支見通し(収支対策後シミュレーション)

- これらの施策から、成行きシミュレーションより事業利益ベースで、令和4年度約69百万円、令和5年度約71百万円、令和6年度約93百万円、令和7年度約79百万円の改善ができる見通しとなりました。

**ポイント** ☀ J A ②では、シミュレーション結果と具体的な収支改善策を開示。改善策の**評価指標や目標値、想定される効果額も明記**し、組合員との対話・理解促進につなげている。

### 経営基盤強化に向けた実践施策(収支改善策)

| 改善施策                           | 取組の詳細  | 評価指標   | 目標値(または状況) |         |         | 効果額      |
|--------------------------------|--|--------|------------|---------|---------|----------|
|                                |  |        | R 4        | R 5     | R 6     |          |
| 春キャベツの作付推進による苗供給枚数の純増          | 合併によるスケールメリットを活かし、適地への栽培振興を行い面積拡大を図ります。            | 栽培純増面積 | 3ha        | 3ha     | 3ha     | 1,132千円  |
| 職員によるドローンを活用した共同防除             | 外部委託の無人ヘリからドローンを活用した職員による共同防除への転換を図ります。            | 散布面積   | 100ha      | 120ha   | 150ha   | 990千円    |
| アプローチリスト活用による購買品供給高、J Aシェア率の向上 | アプローチリストを活用し、耕作面積に応じた生産資材の推進強化を行い、購買品供給高の拡大を図ります。  | 供給高    | 9,000千円    | 9,000千円 | 9,000千円 | 2,700千円  |
| 拠点事業所の集約化                      | 営農・経済事業に関する事業所について、営農指導体制の拡充や機能強化を図るため事業所の集約を図ります。 | 集約化数   | 1拠点        | 3拠点     | 4拠点     | 19,800千円 |

### J Aの取組状況（収益増加に取り組む割合）

| 内容                      | J A 割合       |
|-------------------------|--------------|
| 販売事業の収益力向上（直接販売、ブランド化等） | <b>76.6%</b> |
| 農畜産物の生産拡大（単収拡大、部会の見直し等） | <b>70.7%</b> |
| 貸出強化等による信用・共済事業の伸長      | <b>59.2%</b> |

※複数回答可能な設問における回答上位施策

### J Aの取組状況（費用削減に取り組む割合）

| 内容                 | J A 割合       |
|--------------------|--------------|
| 金融店舗の再編            | <b>55.9%</b> |
| 農業関連施設の再編          | <b>41.7%</b> |
| 集荷・分荷・物流の合理化（販売事業） | <b>31.8%</b> |

※複数回答可能な設問における回答上位施策



# 5-1. 准組合員の意思反映及び事業利用についての方針

## 意思反映の仕組みの明確化及び事業利用についての判断の考え方

### 吉川農林水産大臣（当時）の記者会見

正組合員＜准組合員である貸出状況について

- ・正組合員向け貸出しの支障となっていない
- ・准組合員向け貸出しで得た利益は、正組合員向けの営農指導事業など営農面でのサービス充実にも寄与

### 生活インフラへのアクセスに関する調査

利用者の約9割は「今後も利用する」と回答

- ・地域の重要なインフラとして機能
- ・今後とも地域のインフラとして期待が高い

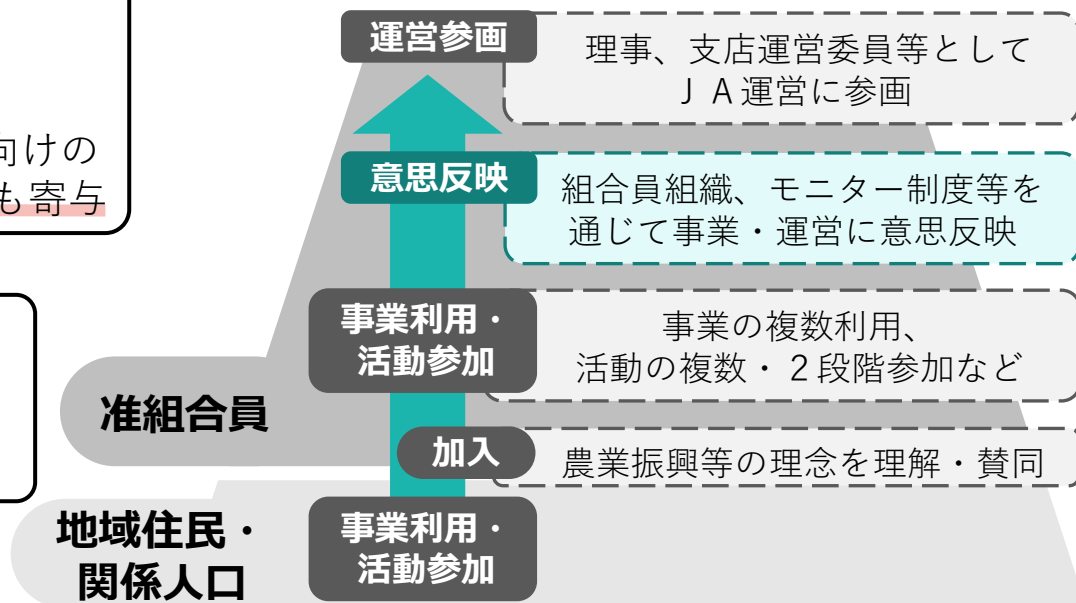
### ポイント

准組合員は、「**正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員**」として、

**農家の一番近くにいる消費者**として、JAの事業・運営に対する意見・要望等を把握することが重要

- ➡ **①意思反映の仕組みを明確化 ②資格別の利用状況を把握して事業利用を組合員が判断**

### 【准組合員・地域住民のステップアップイメージ】



### 准組合員の意思反映の仕組み

#### 【組合員組織】

女性組織、基礎組織を通じた各事業等への意思反映

#### 【個別モニター制度】

個別の事業・活動等の利用・参加を通じて意思反映 など

### A 改善

一つの意思反映の手法に満足せず、他のJAの取り組みも参考にしつつ、**農家の一番近くにいる消費者として農業振興の応援団の取り組みへカイゼン**



# 5-2. 事例・状況 准組合員の意思反映及び事業利用についての方針

## 准組合員の意思反映の仕組み及び事業利用の判断を明示し、事業利用の状況を丁寧に開示している事例

### 3. 准組合員の意思反映及び事業利用についての方針

自己改革の実践にあたっては、改革の評価を把握するため正組合員や生産者組織との話し合い等のみならず、支店運営委員会、准組合員組織、組合員アンケートを通じて、准組合員が「地域農業の主人公である正組合員の営農を支えるとともに、協同による地域の活性化を正組合員と共に担う方」であることで、正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現します。また、組合員の評価を踏まえながら必要な見直しを行っていきます。

併せて、**正・准組合員の利用状況を具体的に把握した結果**、准組合員の事業利用が、正組合員の利用や農業者の所得増大に支障をきたしていないことを確認しており、准組合員を「地域農業の主人公である正組合員の営農を支えるとともに、協同による地域の活性化を正組合員と共に担う方」と位置づけし、引き続き事業を利用することや協同活動に参加することを進めていきます。

### < 組合員との対話・意思反映の取組状況 >

| 項目       |              | 令和3年度実績  | 令和4年度計画  |
|----------|--------------|--|--|
| 支店運営委員会  | 開催回数         | 48回<br>(12総合支店×年4回)                            | 48回<br>(12総合支店×年4回)                            |
|          | 出席人数<br>(延べ) | 955人<br>(書面開催含む)                               | 1,008人   |
| 組合員アンケート | 対象人数         | 600人<br>(内訳) 正組合員300人<br>准組合員200人<br>員外利用者100人 | 700人<br>(内訳) 正組合員300人<br>准組合員300人<br>員外利用者100人 |
|          | 回答人数         | 316人   | 500人以上   |

### ポイント

JA③では、准組合員の意思反映及び事業利用の方針で、**准組合員の意思反映の仕組み及び事業利用の判断を明示**するとともに、**事業利用の判断にあたり、組合員の事業利用の状況を明示、制度の趣旨も丁寧に説明**している。

### JAの取組状況（施策に取り組む割合）

| 内容                | JA割合  |
|-------------------|-------|
| 日常的な訪問活動による対話     | 69.8% |
| 組合員アンケート          | 49.1% |
| くらしの活動・イベントのモニター等 | 44.6% |
| 支店（支所）運営委員会の委員    | 35.4% |

※複数回答可能な設問における回答上位施策

### 「准組合員の意思反映及び事業利用についての方針」における事業利用に関する確認

【令和3年度における事業利用の状況】

(単位：千円、%)

|      | 信用事業                |                     | 共済事業                | 購買事業                | 生産資材              | 生活物資                | ガソリンスタンド            |
|------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------|---------------------|---------------------|
|      | 貯金                  | 貸出金                 |                     |                     |                   |                     |                     |
| 正組合員 | 1,031,723<br>9.6%   | 821,751<br>2.0%     | 735,450<br>3.4%     | 372,893<br>4.2%     | 104,355<br>1.8%   | 100,316<br>5.8%     | 568,221<br>5.5%     |
| 准組合員 | 40,223<br>9.6%      | 552,305<br>2.2%     | 354,667<br>8.1%     | 990,308<br>3.1%     | 424,535<br>4.3%   | 174,196<br>4.9%     | 591,577<br>9.7%     |
| 員外   | 35,235<br>0.8%      | 790,939<br>5.7%     | 124,095<br>2.5%     | 335,886<br>2.7%     | 392,177<br>4.0%   | 900,309<br>9.3%     | 743,400<br>4.8%     |
| 合計   | 1,077,181<br>100.0% | 1,164,995<br>100.0% | 1,214,212<br>100.0% | 1,999,087<br>100.0% | 921,068<br>100.0% | 1,074,821<br>100.0% | 1,903,198<br>100.0% |

准組合員制度は、地域に居住する住民等についてもJAの事業を組合員として利用する途を開くために設けられているものであり、地域社会において、JAが地域のインフラとして「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」や事業運営の安定化を通じた「自己改革を支える経営基盤強化」に資することで、准組合員の事業利用が正組合員へのサービス確保につながる側面を持っていることを確認します。

しかしながら、JAはあくまでも農業者の協同組織であり、准組合員へのサービスに主眼を置いて、正組合員である農業者へのサービスが疎かになってはならないよう、引き続きJAが地域になくならないJAであり続けるため、持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、自己改革に継続して取り組んでいきます。

# 6-1. 自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の取り組み

## 自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の考え方

**P** 全JA実施済 対話を通じて、3つの方針をとりまとめた自己改革工程表等を策定し、総(代)会で決定

**D** 全JA実施中 決定した自己改革の取り組みを着実に実践

**CA** **最重要** **対話を通じて、取り組みに対する組合員の評価・意向を把握**のうえ、**取り組みを改善**

対話による  
評価・改善

組合員との対話の状況は、各JAにおいてとりまとめるとともに、対話で出された意見についても、**JA内での共有等を通じて、取り組みの改善、さらなる実践につなげる**

## 対話

**最重要ポイント**  対話を通じて、評価・意向を把握し、取り組みを改善、さらなる実践

令和4年度

令和5年度

総(代)会決定

自己改革  
工程表

対話

施策の周知・推進

対話

取組状況の説明

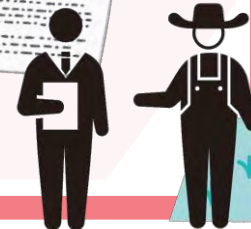
対話

- ①自己改革の取組状況・実績、組合員の利用状況の**説明**
- ②組合員の評価・意向を**把握**
- ③組合員の意見をふまえ**改善**

自己改革  
工程表**改案**

総(代)会決定

自己改革  
工程表**改**



**A** **改善** コロナ禍で訪問や会合を控えた状況から、徹底した対話とさらなる実践へ **カイゼン**

# 6-2. 事例・状況 自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の取り組み

## 様々な機会を利用した組合員との対話の実践とアンケートを通じて評価等を把握している事例

### 対話を実践している会議・訪問活動

- ①各生産者部会（協議会含む）総会
- ②女性部・青年部総会
- ③各年金友の会総会
- ④総代会前地区別説明会
- ⑤モニター会議
- ⑥認定農業者・組合員と語る会
- ⑦TAF巡回
- ⑧メイン強化先巡回
- ⑨大口先巡回
- ⑩ふれあい訪問活動
- ⑪その他、組合員等を参集する会議等全て

※TAF：担い手に出向く担当部署



TAF：7名（うち令和3年から女性1名）  
 業務：定例訪問活動・青色申告支援等  
 巡回状況：令和3年度**3,175回**、  
 令和4年度**3,515回** 組合長の同行訪問を実施

令和2年度より、毎月第2週に「ふれあい訪問活動」を実施  
 毎月テーマの異なるアンケートを実施し、意見等は翌月の企画会で対応を協議することで、  
 組合員の意思反映につなげ、広報誌等を通じて、回答のフィードバックを実施



上半期実績報告資料

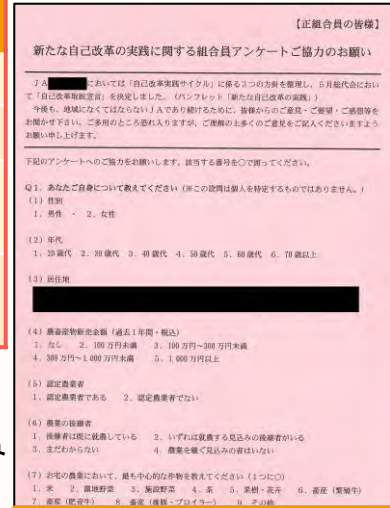
### J Aの取組状況（C Aの手法・機会の割合）

| 内容              | J A割合 |
|-----------------|-------|
| 営農指導や事業推進       | 95.3% |
| 年1回以上のアンケート     | 77.7% |
| 生産部会・座談会等       | 73.1% |
| 評価把握等を目的とした訪問   | 72.1% |
| 組合員組織活動やくらしの活動等 | 57.2% |

### ふれあい訪問活動

|         |      |         |
|---------|------|---------|
| 令和3年度計画 | 正組合員 | 17,000人 |
| 令和3年度実績 | 正組合員 | 14,329人 |
| 令和4年度計画 | 正組合員 | 9,600人  |
|         | 准組合員 | 3,000人  |
| 令和4年度実績 | 正組合員 | 11,544人 |
|         | 准組合員 | 2,871人  |

**ポイント** J A④では、上半期実績の開示を含め、従来の取り組みの拡大など様々な機会を利用して、組合員との対話に取り組んでいる。



評価等把握用アンケート




# 7-1. 実践サイクル1年目の取り組み徹底に向けた支援

## 自己改革実践サイクルにおける中央会・連合会の支援の考え方



組合員との対話や各JAの事業環境に応じた取り組みを実践



**ポイント**  全国一律の支援とするのではなく、全国域の支援策をふまえ、  
県域がより実践的な支援に取り組むことで、**各JAの実態に応じた取り組みを着実に実践。**

### 支援の取り組み

- ・ **全国域において**、3つの方針策定の考え方や盛り込む要素などを整理、周知  
R3年度：**全国3地区**で部課長向けに**自己改革担当部課長会議**を開催  
WEB配信で**経営層**向けに**自己改革実践セミナー**を開催 **担当者**向けに**自己改革実践サイクル及び対話の説明**を実施  
R4年度：**全国6地区**で部課長向けに**自己改革担当地区別部課長会議** **経営層**向けに**自己改革実践トップフォーラム**を開催  
WEB配信で**担当者**向けに**自己改革実践サイクル等全国説明会**を開催 など  
→ **各階層や地域ごとの重層的な取り組みで、着実な実践を後押し**
  - ・ **県域において**、各JAに対して、説明会開催や巡回等より実践的な支援を実施
- ※各JAの方針策定状況の確認、事例の共有化のために**全JAより方針等を収集**
- ・ **優良事例の横展開**として、会議等での共有に加え、**項目別事例集**の作成・周知や**自己改革ニュース**の毎月の発行を実施
  - ・ **自らの取り組み**として、直販や輸出等の販売強化、銘柄集約や担い手直送等のコスト低減を通じてJAの取り組みを支援

# 7-2. 事例 実践サイクル1年目の取り組み徹底に向けた支援

## 自己改革実践トップフォーラム

【対象者】 組合長等 J A 経営トップ層

【目的】 自己改革実践サイクルの着実な実践に向けた機運を高めるとともに、自己改革の最重点分野である「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に向けた先進的な取り組み事例等を学び、自らの J A の自己改革のさらなる進化をすすめることを目的

【内容】 第1部で、全国的な自己改革実践サイクルの取組状況等について情勢報告ののち、各地区でそれぞれ 2 J A が実践報告し、第2部で、全国連による J A の取り組み支援策を報告した。

【開催方法】 全国 6 地区（一部WEB併催） **396JA、735人**

|        |           |       |            |
|--------|-----------|-------|------------|
| 北海道・東北 | 59JA、111人 | 関東・甲信 | 148JA、253人 |
| 東海・北陸  | 86JA、151人 | 近畿    | 37JA、73人   |
| 中国・四国  | 19JA、48人  | 九州・沖縄 | 47JA、99人   |



## トラクターの共同購入

大型（60馬力）

平成30年度～令和3年度累計

**2,214台**



中型（33馬力）

令和2年度～令和4年度12月末

※好評だった大型トラクターの共同購入について担い手の要望に基づき中型も発売

**3,411台**

## 人手不足に対応した労働力支援

<令和4年度実績>

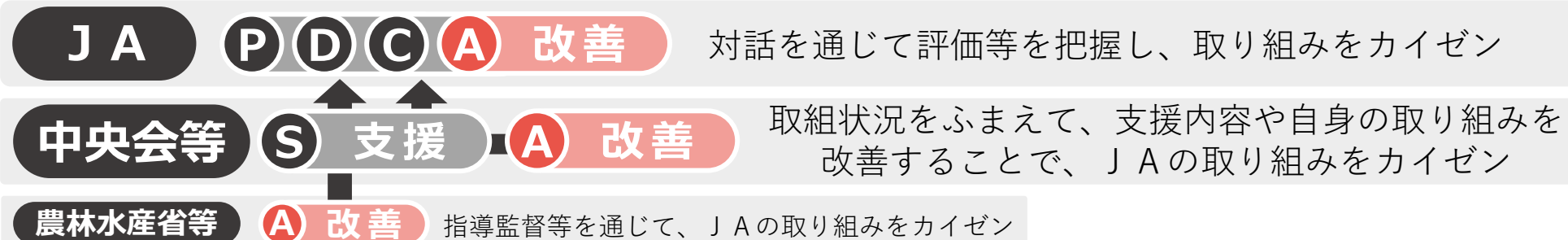
| 県   | 参加延べ人数   | 作業内容<br>パートナー企業         |
|-----|----------|-------------------------|
| 山形  | 2,000人   | サクランボ収穫等<br>(株) JTB     |
| 福島  | 4,000人   | きゅうり選果等<br>(株) JTB      |
| 大分  | 20,000人  | 各種品目収穫・選別<br>(株) 菜果野アグリ |
| 全国計 | 53,000人超 | 14道県<br>パートナー6社         |






# 8. 自己改革実践サイクルにおけるカイゼンの取り組み

## 自己改革実践サイクルのカイゼンの考え方



**ポイント**  自己改革実践サイクルは、**3重の「カイゼン」の仕組みを備えた、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化のためのベストプラクティス。**

### JAにおける2年目のベストプラクティス

- ①自己改革実践の具体的な方針 ➡ つながりが不明確なKPIをなくし、明確で所得増大の多寡がわかるKPIを設定し、実践
- ②シミュレーション ➡ 妥当な収支改善策の検討のため、事業量目標や収支改善額等を盛り込み、進捗管理を高度化し、実践
- ③准組合員の意思反映及び事業利用の方針 ➡ 他のJAの取り組みも参考にしつつ、農業振興の応援団の意思反映を実践

**最重点** さらなる会合の開催や訪問活動などの**徹底した対話による「C：評価」と「A：改善」を実践**

### 中央会等における2年目のベストプラクティス

- ・自己改革実践サイクルの取り組み徹底に向けた課題の整理と解決に向けた地区別・階層別の会議やフォーラムの開催
- ・販売強化やコスト低減等に向けた自らの取り組みのさらなる実践を通じたJAの取り組み支援
- ・優良事例のさらなる横展開に向けた事例集の更新や活用推進の取り組み
- ・JAにおける「CA」の徹底に向けたツール提供や対話の実践支援 など

**自己改革に、終わりはない。（JA全中・中家会長）**

**自己改革実践サイクルによるカイゼンを通じて「不断の自己改革によるさらなる進化」をめざす。** 13